

2022.

1

# 全人

玉川の教育をつたえる

ZENJIN

No.867

特集

## ELFの可能性

interview

完璧主義を捨て

楽しみながら英語を使おう

ニコラス・レニック 医師

Why ELF?

データでみるELFプログラム

Messages from  
ELF teachers to Students

研究者紹介

黒嶋智美 / 石川友和 / 岡田トリシャ

連載

RESEARCH REPORT

教育博物館企画展

近代日本の学校体育と運動会

研究室訪問

観光学部 ティーナ・マティカイネン

脳科学相談室

松田哲也

数字でみる玉川

デンマーク体操 OTD章授与者

研究エッセイ

IB Programs Division

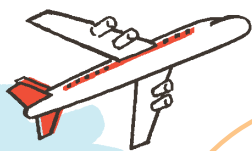
体育祭演技発表の軌跡

大澤誕也

玉川大学コスモス祭2021

令和4年1月10日発行（毎月10日発行）第96巻第1号

玉川学園・玉川大学



学生が1週間に受講する  
ELFプログラムの授業時間

**200**  
minutes/week

教員・チューターが  
世界から集結

**23**の国籍、  
**18**の母語!!

英語話者20億人超のうち、  
ネイティブスピーカーは

たった、約**4**億人!!



# 可E 能L 性F の

特集

リンガ フランカ  
**ELF** (English as a Lingua Franca)  
研究にもとづく

**世界初**のプログラム!!

グローバル化社会のコミュニケーションで求められる英語力とはなにか。玉川大学ELFセンターではそのテーマと向き合い、実践を通して探究しています。

玉川が掲げるESTEAM教育の一翼を担うELFプログラムは、2022年度で開始10年に。23年度からはこれまでの実践と研究の知見を有機的に活用し、より進化した新カリキュラムへと移行予定です。

自分自身の英語を育てるカリキュラムと学修環境を提供し、実践と研究にもとづく、従来型とは一線を画した英語教育「ELFプログラム」の今と未来を考えます。



科研費\* 研究実施件数

2020年度 **15**件

2019年度 **16**件

2018年度 **14**件

\* 科学研究費助成事業

# 在日オーストラリア人医師が提案するより良い学び 完璧主義を捨て 楽しみながら英語を使おう

「日本人が自分の英語能力を否定すると、外国人として不思議に思います」  
そんなツイートが先ごろ話題になりました。  
発言者のニコラス・レニックさんは日本の病院で働く医師。  
第二言語として日本語を習得し、仕事で使  
メディア出演も日本語でこなすレニックさんに、  
英語をより良く学び、使うために大切なことを伺いました。



ニコラス・レニック 医師



「日本人の英語力はすごい」とツイートしたら、ものすごい反響があった。びっくりしました。在日外国人にとって「日本人は英語ができないなんてこととはない」は常識。「できない」と言うみなさんが、英語で道を訊かれたら、「Go this way」とか、何となく言えている。なぜできない意識があるのか、本当に不思議です。  
ツイートの英文を読んだ。「これって中学レベルの英語ですよ」と言う人もいました。そこに日本の中学英語のレベルの高さを感じます。この英語は、英語ネイティブが言いたいことを伝えるときに使っているもの、手加減

はまったくしていません。ツイートでは、こんなことも言いました。  
「知らない英語はたくさんある。でもOK。これを読めばあなたの英語は素晴らしい。自信を持って！」  
第二言語でこのレベルの文章を読める人は、英語圏にはそういません。「ひらがな」カタカナを覚えるのはたいていんだったのでは」とよく質問されます。それでアルファベットを覚えるのはどうだったか尋ねると、誰もが「それは当たり前のことですから」と答える。そんな日本人なので、教わった英語はすぐに覚える。中学から高

る人へ優秀と捉えていますよね。逆に英語を間違っただけで優秀じゃないんだと考えているように見えます。  
「あなたの英語は実は恥ずかしい」というような本が売られていますよ」とね。英語を使うときに間違っただけじゃない、完璧主義の雰囲気を感ずる。

私が英語ネイティブのひとりとして言いたいのは、ノンネイティブの英語が完璧であるべきだとは誰も思っていないという事です。  
私たちが相手の表情や身振り手振りからメッセージを察します。意味が通じれば、発音や文法を間違っただけでも、決してバカにしたりなんかしません。

昔に比べて第二言語として英語を話す人が増えています。英語はほとんどシンプルになっています。だから「正しい英語」を話そう、「Can you...?」より「Could you...?」を使って丁寧にお願ひしよう——なんて話を日本で聞くと、驚いてしまいます。私には2つの違いがまったくわかりません。日本人がいちばん日本人の英語に感ずるんじゃないでしょうか。

「学校で勉強したから読める。でも話せない」と言う人もいます。私に言わせれば、読めるだけでいいこと。英語の情報に触れるだけで、世界はかなり広がるわけですか。  
言語の学習は加点主義で自分の目標に合わせて自由に

日本文化に憧れ、中学校から日本語を学んだレニックさん。  
「言語は間違えながら覚えるもの」が持論

たとえ言い間違いがあっても  
メッセージが通じればいいんです

始めましたが、当時から第一言語のように操れるはずがないと諦めていました。今も日本語を使うとき、不自由さは感じます。ただ、そこで間違っただけ恥ずかしいとは思いませんし、プレッシャーもありません。  
言語の学習は完璧主義と相性が悪いものです。私の場合、少しずつ使える言葉が増えていって、「自分はこれだけできるようになった」と、いつも加点主義で学んでいます。  
みなさんは、意思疎通に必要な英語の基礎的な知識を中学英語で十分に学んでいます。あとは使うだけです。外国人とコミュニケーションをとりたいければ、ためらわず話してみよう。英語で本や資料を読むことが目標なら、とにかく読む。英語圏の映画やドラマを字幕や吹き替えなしで観たいなら、この時代、インターネット上でいくらでもチャレンジできます。  
第二言語の学習は、そもそも楽しいものです。基礎を身につけたら、あとはその人なりに、自由に学べるのです。プールのコースを泳ぐのでなく、海で好きに泳ぐのと同じです。

私は「Learn by using」で日本語を使って発信校へ進むと内容はさらに高度になる。むずかしくなるほど、まだまだ力が足りないと思っことが増える——それで英語力に自信を持ちにくくなっているのではないのでしょうか。  
高校時代、埼玉県県立高校に数ヶ月間留学しました。英語の授業ではむずかしい英語をよく目にしました。私にもっとわかるとわらないくらいのものがいくつもありません(笑)。  
第二言語で話す英語が完璧である必要はない  
日本人は大人も子どもも、英語を使えることこそその人の価値、英語を操

**Profile**  
ニコラス・レニック  
Nicholas Rennick  
医師。オーストラリア出身。15歳から本格的に日本語を学ぶ。シドニー大学教養学部（日本語専攻）卒業、同医学部卒業。2020年に来日。医師国家試験合格。現在NTT東日本 関東病院 国際診療科、総合診療科に所属。発熱外来も担当。テレビ、ラジオに定期出演するなど、医療にとどまらず活躍している



## 可能性

ELFの

## To students learning English

Welcome to Center for ELF, where students are encouraged to learn about language from a broad perspective. English is an international language. Its use for successful communication between people of different first languages is studied at CELF. Our teachers, who come from diverse cultural and linguistic backgrounds, are valued for their teaching ability, language proficiency, and transcultural awareness.

ELF teaching, learning, and research present an opportunity to broaden our conceptualization of language education. In view of the diversity of English use throughout the world, we look forward to cooperating within the Tamagawa Gakuen community and collaborating with educators and researchers in Japan and internationally, to help students make reasoned judgements and communicate effectively in their present and future contexts of language use.

We wish you well with your language learning and we look forward to meeting you.

### 英語を学ぶ皆さんへ

ELFセンターへようこそ。ELFセンターでは、学生たちが幅広い視点を持って言語を学ぶことを推奨しています。英語は国際的な言語です。ELFセンターでは、異なる第一言語を話す人同士のコミュニケーションを円滑に進めるための知識や運用について研究しています。こうした研究と教育を実践する多様な文化や言語的な背景を持つ教員は、指導力、言語力および異文化意識において高く評価されています。

ELFの教育研究活動は、言語教育の概念を広げる機会を提供します。グローバル化社会の環境や場面の多様性を考慮し、大学やK-12、各部署と連携、さらには国内外の教育者や研究者とも協力の上、学生が合理的な判断のもと、現在と未来において効果的なコミュニケーションができるようになることを期待しています。

皆さんの言語学修の発展をお祈りするとともに、お会いできることを楽しみにしています。



ポール・マクブライド 准教授

Paul McBride

ELFセンター センター長代理

大学卒業後、母国オーストラリアのK-12スクールで教鞭をとったのち、クイーンズランド工科大学大学院で修士(TESOL\*)を取得。韓国、日本の英語教育従事を経て、2006年玉川学園高等部に着任。2011年よりELFプログラムの導入に尽力し、2020年より現職。現在大学英語教育学会 (JACET) 関東支部の副支部長をつとめる

\*母語を英語としない人向けの英語教授法



グループワークで学ぶ授業 (2016年)

## 可能性の Why



## 学生の能力に応じて 8段階に分けた少人数クラス

ELFプログラムは玉川大学全学部の必修選択科目。1クラス平均の学生数は20人ほどの少人数制で、横長の講義室に並ぶ机は3、4列ほど。教員と学生の距離を近づけ、きめ細やかな指導を可能にする学修空間にデザインされています。授業は1週間で20分(1コマ50分×4コマ)あり、授業外の予習・復習と、課題には一人ひとりに合わせたフィードバックが返されます。クラスは能力に応じて初級から上級の8段階に分けられます。学修目標の到達度によって、上位レベルに進むことができます。

## ELF?

玉川大学は高等教育機関として、世界で初めて全学規模で英語教育カリキュラムにELFを導入しました。「ELFとは?」「なぜELF?」「ELFの特長は?」などの疑問に答え、ELFプログラムが国内外から評価を受ける理由を探ります。



## 実社会の コミュニケーションを 想定したカリキュラム

玉川大学が推進するELF (English as a Lingua Franca) プログラムは、「共通の母語を持たない人同士のコミュニケーションに使われる言語」を学ぶプログラムです。**世界中にいる英語話者の約80%は別の母語を持ち、英語を修得して、第二、第三の言語として使用する人々。**多様性を尊重するグローバル化社会では、ネイティブスピーカーが話す英語を目標とする英語教育では不十分。ELFプログラムは、**英語を自分の言葉とし、よりインクルーシブなコミュニケーションを実現するために構成されています。**



## 多様な国籍や母語、 バックグラウンドを持つ 教員から学ぶ

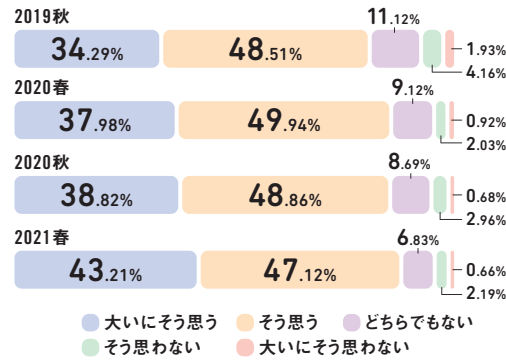
グローバル化社会で英語によるコミュニケーションを可能にする「**共通語としての英語**」を身につける。これが、ELFプログラムが掲げる学修目標です。カリキュラムの実践は、国籍や言語、文化など、多様性に満ちたバックグラウンドを持つ53人の教員・チューターたちが担っています。英語運用能力をレベルアップさせるだけではなく、グローバルコミュニケーションの学びや体験などを通して、**多文化に触れ、異なる社会や価値観にも興味・関心を持ち、互いに尊重し合う共生社会を構成する一員としての自覚や意識も培います。**

## 満足度

### Student Satisfaction

ELFセンターでは学期ごとにアンケート調査で学生の満足度を確認し、カリキュラムの改善や質向上につとめています。コロナ禍で遠隔授業が導入された2020年以降は、「今学期のオンキャンパス/オンラインプログラムに満足している」「今学期のELFオンラインクラスで英語力を向上させることができたと思いますか」などの設問が加わりました。右記グラフの「大いにそう思う」「そう思う」の合計は、19年秋季学期82.80%、20年春季87.92%、20年秋季87.68%、21年春季90.33%と推移しており、ELFプログラムを有意義だと実感する学生の割合が増えていることがわかります。

### 「ELFプログラムで学んだことは有意義だった」



「ELFプログラム改善のためのELF学生アンケート調査」より

先生が親身に相談など聞いてくれて、初めてのELFがとても楽しかったです

違う学部の人と深く関われてとても有意義な時間を過ごせました！

少人数クラスだったので間違えることが怖くなかったので、積極的に英語を話そうと思った。その結果英語を話すことが楽しくなった

対面でも遠隔でもまわりの人と話す機会が多く、英語を話すことにしただけ躊躇しなくなった

ELFプログラムで英語が好きになりました

グループワークが多かったので友達と協力しながら楽しく英語を学べたのが良かったです

海外の事について(とくに人種差別)色々な情報を学ぶ事ができたのでとても有意義な授業だった

高校までの授業とは違う視点で英語を学ぶことができて良かった

「2021年度春学期学生アンケート」の自由記述より抜粋

## 学生たちの声

### Voices of students

ELFプログラムの目標は、玉川大学が推進するESTEAM教育にもとづく学年・学科融合型の「レベル別クラス」。2023年度実施の新カリキュラムから、さらなる異分野融合に取り組む予定です。コロナ禍により「対面・遠隔授業」が併用に。学生たちの声や満足度にどちらも遜色なく授業が進められた様子がうかがえます。多様なバックグラウンドを持つチューター(学修アドバイザー)からアドバイスを受けられる「チューター制度」。力を試したい、日常会話を楽しみたいなどの要望や、英語の学修方法に関する相談などが寄せられています(1回15分・予約制)。

### ELFプログラムで、英語を自分の言葉に

学生のアンケートなどからELFの考え方が学内で浸透し、定着してきたことを実感します。私たちELFセンターの自慢は、言語学習・指導経験が豊かで、学生と一緒に学ぶことが大好きな教員たち。より良い授業をめざして知識や経験を惜しみなく共有し、試行錯誤して、研究を授業

に活かしています。

また、英語は文法、発音などの技能面に偏らず、自分の身の回りにあるリソースを活用して相手とコミュニケーションをとるもの。ELFプログラムの学びを通して、英語が自分の言葉になっていくことを実感してもらえたら、と思います。



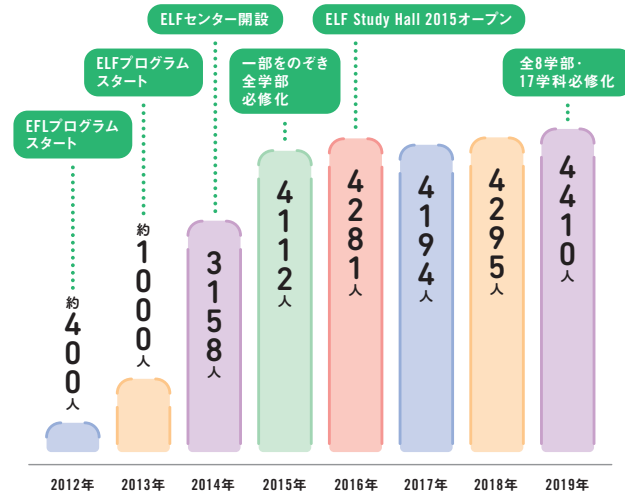
鈴木 彩子  
(PhD) 教授  
Ayako Suzuki  
ELFセンター  
副センター長

玉川大学文学部卒業。同大学院で修士(英文学)、ロンドン大学でPhD(言語教育学)を取得。2008年から本学で教鞭をとり、2020年より現職。英語教育の世界的学術誌『ELT Journal』で編集委員をつとめ(11-13年)、近著が同誌最新号(21年10月号)に掲載されている。近年はELFと多文化市民教育の研究に注力

## データでみるELFプログラム

2022年4月で運用開始から10年を迎えるELFプログラム。12年にEFL\*プログラムとしてスタートし、必修とする学部・学科を徐々に拡充。19年に全8学部・17学科で必修となりました。現状と9年間の実績、プログラムの歩みを振り返ります。

\* English as a Foreign Language



## 受講学生数

### Number of students

2011年にEFL委員会を設立し、新しい英語教育プログラムを検討開始。12年に文学部比較文化学科(当時)、経営学部国際経営学科、観光経営学科(当時)でEFLプログラムが始まり、13年ELFプログラムに名称変更。同年リベラルアーツ学部、観光学部(13年新設)も加わり、スタートしました。15年教育学部乳幼児発達学科、芸術学部芸術教育学科をのぞく全学部・全学科が加わり、19年に全学部・学科で必修に。EFL運営委員会委員長としてプログラムを推進した文学部小田眞幸教授が、14~19年までELFセンター長をつとめました。

## 評価方法

### Assessment

言語学習で重要とされる、読み(Reading)、書き(Writing)、聞く(Listening)、話す(Speaking)の4技能を活用して、日常生活のコミュニケーションに必要な力を、実践的なカリキュラムを通して総合的に学びます。学期中に複数回、学生の修得度を確認する機会を設け、評価に反映。グローバル化社会に通用する「伝わる英語」の学修は、文法を疎かにするカリキュラムではありません。グローバルコミュニケーションを可能にする、バランスのとれた英語運用能力の獲得をめざしています。

### TOEIC IP Scores

日本のビジネスシーンにおける重要性をふまえて、学期の後半に1回実施。獲得したスコアを受講レベルに応じて点数に換算する

### Classroom Work, Participation and Homework

授業への参加と課題提出により学修意欲、姿勢を評価。出席だけでは不十分。期限が過ぎた課題は減点になる(毎回)

### Writing Assessment

エッセイ、2回のドラフト(草稿)を提出。教員の添削、フィードバックをもとに、最終版を執筆。書く力の修得度を評価する(1学期中3回)

### Listening and Speaking Assessment

共通の教科書やTOEIC問題集などを元に、身近なトピックを発展させた教員と学生、あるいは学生同士の対話、議論などを評価する(1学期中複数回)

### Reading Comprehension Assessment

学生の受講レベルに応じて担当教員が選んだ文章を用いて、理解力や語彙力を確認する(1学期中複数回)

**Using and exploring English can empower you and create new opportunities in your life.**

英語を使い、探求することは、あなたに力を与え、人生に新しいチャンスを生み出すことにつながります。



**ブラゴヤ・ディモスキ** 准教授  
Blagoja Dimoski

マケドニア出身。オーストラリアで育つ。グリフィス大学卒業後、クイーンズランド大学大学院で修士（応用言語学）を取得。ELFのほか、コミュニケーション戦略や聴解力の向上が研究テーマ

**Through hard work and determination, nothing is impossible - no matter what your goals are.**

どんなゴールであっても、固い決意と努力があれば実現不可能なことなどありません。



**中村 幸子** (PhD) 助教  
Sachiko Nakamura

福岡大学卒業。米国アナハイム大学大学院で修士（TESOL）、タイ王立モンクット工科大学大学院でPhD（応用言語学）取得。学習者のエンゲージメント（自分の学習に積極的に関わること）や心理について研究  
\*母語を英語としない人向けの英語教授法

**English is yours, and the world is yours! We got your back!**

英語はあなたのもの、そして世界はあなたのもの！ 私たちがついています！



**ミソ・キム** (PhD) 助教  
Miso Kim

韓国出身。チュンアン大学卒業。同大学院で修士（英語教育）、米国ペンシルベニア州立大学大学院でPhD（応用言語学）を取得。多言語使用者の言語使用の最新理論である、トランスランゲージングなどが研究テーマ



**Language learning is easy if you laugh and have fun!**

笑って、楽しんでいれば、言語学習は簡単になる！



**トラヴィス・コーテ** 准教授  
Travis Cote  
観光学部兼任

アメリカ出身。コロラド大学卒業後、セントマイケルズカレッジ大学院で修士（TESOL）を取得。ELFを中心に、教育工学、なかでもモバイルデバイスを活用した学習について研究



**ティーナ・マティカイネン** (EdD) 准教授  
Tiina Matikainen  
観光学部兼任

フィンランド出身。米国セントマイケルズカレッジ卒業後、同大学院で修士（TESOL）、米国テンプル大学大学院でEdD（教育学）を取得。専門はTESOL、応用言語学。主にネイティブスピーカー問題などをクリティカルな視点から研究



**Find your own way to enrich your life with English. Learn and speak the English you want to get ready for the world.**

英語で人生を豊かにする自分らしい方法を見つけましょう。あなたが望む英語を学び、話すことが、世界に向かって準備することになります。

可能性  
ELF  
の特集



英語を学ぶ学生を応援します！

# Messages from ELF teachers to Students

英語をコミュニケーションのツールとして、さらに夢をかなえるツールとして、学びを生かすために—学ぶ心がまえから力強い励ましまで、ELFの授業を担当する教員が、学生に向けてメッセージを届けます。

**Do what you love!**

自分の好きなことをしよう！



**ブレット・ミリナー** 准教授  
Brett Milliner

オーストラリア出身。グリフィス大学卒業後、南クイーンズランド大学大学院で修士（応用言語学）を取得。継続学習センターで講座も担当。モバイルデバイスを用いた言語学習、特に多読、多聴に着目し研究



**Open the door and you will find a new way to study English.**

ドアを開ければ、新しい英語学習の道が見つかります。



**祐乗 坊由利** ジョディー 准教授  
Yuri Jody Yujobo

アメリカ出身。サンディエゴ大学卒業後、米国テンプル大学大学院で修士（教育学）を取得。ビジネスシーンでのELF、ESTEAM教育、バイリンガリズムをテーマに研究。人材開発・教育支援企業での勤務経験を持つ



**アンドリュー・レイクセンリング** (PhD) 准教授  
Andrew Leichsenring

オーストラリア出身。クイーンズランド工科大学で修士（教育学）、同大学院でPhD（教育学）を取得。オーストラリアの初等教育教員免許状を持ち、教師教育を専門とする。国際マーケティングにも精通



**Have an open mind, relax, and enjoy learning from yourself and other classmates.**

心を開き、リラックスして、自分自身とクラスメートから学ぶことを楽しみましょう。

**The important part of language learning is communication. Make your learning meaningful to you and do it at your own pace.**

言語学習で重要なのはコミュニケーション。学びを自分にとって意味のあるものにして、そしてそれを自分のペースで行いましょう。



**ラサミ・チャイク** 准教授  
Rasami Chaikul

タイ出身。国立チェンマイ大学卒業後、同大学院で修士（TEFL）を取得。異文化間コミュニケーション、国際理解教育、言語政策をクリティカル・リテラシーの視点から研究  
\*外国語としての英語教授法



会話分析で探る、人びとが織りなす相互行為

# 会話という社会的活動を解明し、人生、時代の記録に携わる

会話する際のことばや表情、視線、身振り、文脈などを分析し、どのような相互行為を通して、人びとが社会的活動をするのかを科学的に解明するのが「会話分析」です。

寿司店の板前と客、ボランティアと利用者など、多様な関係性を対象にフィールドワークに取り組み黒嶋助教に話をうかがいます。

## 黒嶋智美 (PhD) 助教

Satomi Kuroshima

香川県出身。同志社女子大学卒業。イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校で修士 (TESL\*)、カリフォルニア大学ロサンゼルス校でPhD (応用言語学) を取得。日本学術振興会特別研究員を経て、2017年より現職。共著に『共感の技法』(勁草書房)、『子育ての会話分析』(昭和堂)のほか、日英両言語で多数の論文を執筆。複数の科研費研究に携わる

\*第二言語としての英語教授法



人びとの相互行為を科学的に解明する研究手法の中で、最適なのが会話分析だと信じています。

会話分析は研究対象を選びません。留学時に取り組んだのは、ロサンゼルスにある寿司店の板前と客。板前と客が楽しくコミュニケーションする訳を探りたいと。福島県のある帰還地域住民座談会、原発事故の内部被ばく

検査結果を伝える医師と来院者のやりとりなども対象に研究しています。

9年の留学を終え帰国した半年後、東日本大震災を経験しました。当時は医学、工学、社会学による、三次救急におけるチーム医療の研究に従事していました。震災後、周囲に目を向けたとき、何かやりたいと。福島の足湯ボランティア活動のことを知り、共同研究に参加しました。

会話分析は人の命を救ったり、直接利益をもたらすものではありません。ですが、この時代にこういう人たちがこういう会話をしていた。その記録を残すだけでも意味があるだろうと。

「東京の人はもう忘れていきますよね」とよく言われます。完全な復興には遠く、原発の問題も終わっていません。人に読まれる形にして残す。忘れないでいる。広義のジャーナリズムになれば、と思います。

研究の知見は授業で活用しています。挨拶されたら返す、質問したら返答がくるなど、基本的な会話の構造はどの言語も共通。「日本語でできるならできるよ」と学生に伝えています。友だちを誘うとき「明日ひま？」など相手の状況を確認し「ひまだよ」と言われたら話を切り出しますよね。英語も同じ。相互行為の構造を理解して学びを深めてもらいたいのです。

## 相互行為

会話は人と人の相互行為 (インタラクション) で成立する。相互行為は音声やことばにくわえ、視線や表情、身振りなどを資源として達成する私たちの社会的生活の基盤。会話分析では会話を録画し、文字や記号に書き起こし (転記)、会話の構造を明らかにする



## 特集 ELFの 可能性



## 会話分析

社会学のひとつであるエスノメソドロジー (ethnomethodology) から派生した研究手法。既存の社会学が扱わなかった「会話」に注目したアメリカの社会学者ハーヴィ・サクス (1935-1975) が創始。社会学、言語学などにまたがる研究

## Pre-emptive strategy

表現方法に迷うときなどに、自分の考えが相手にうまく伝わらない可能性を予測して回避すること。相手の意図を理解しようとする姿勢、事前に説明を加えるなどの工夫が必要

## コミュニケーションのあり方を追究する 多言語環境で見えてくる 言語と異文化のかかわり

「正しい英語」とは何でしょうか。「正しい」と感じているものは、相手とは共有されていないイデオロギーかもしれません。固定観念の壁を越えて世界とかわっていくことが、真のグローバルコミュニケーションだと語る石川助教に、ELFがめざすコミュニケーションのあり方をうかがいます。



## Symbolic violence

フランスの社会学者、哲学者ピエール・ブルデュー（1930-2002）が提唱した概念。日本語では象徴暴力と訳される。自分や周囲にとって役に立たないような価値観を、無意識のうちに自ら信奉し、振りかざすこと

ELFセンターの英語学修は、コミュニケーションによって世の中とどのようにかわっていくかという、ヒューマンアクションであると思います。英語の文法や語彙などを知識として身につけるだけでなく、多言語環境の中で実践していくことに重きを置いています。共通語としての英語学修は、広義での言語教育や異文化教育と切り離せません。例えば、無意識のうちに文化を国籍でくくって単純化してしまうようでは、言語の知識が豊富でも、効果的なコミュニケーションは難しいでしょう。また、うまく意思疎通ができない可能性があると言測する力、プリエンティブ・ストラテジーを経験から学ぶことも大切です。伝えるツールは、言葉だけではありません。私たちは常に「当たり前」と思われている現実、つまりイデオロギーの圧

力にさらされています。例えば英語を学ぶとき、教科書的な「正しい英語」に囚われてしまうかもしれません。しかし、実際には教科書のような英語を使っている人はほとんどいません。「英語のみを話すネイティブの英語は完璧だ」という価値観はシンボリック・バイオレンスであり、自分自身の可能性も否定してしまいます。その結果、英語を自分のアイデンティティの一部に取り込んだ多言語話者としての、豊かな表現はできなくなるでしょう。自らのイデオロギーを認識し、相手の所属性の多様さをとれただけ理解しようとしていいのか。グローバルな社会の中で積極的に行動を起こしていけるよう、そうした準備のためのELFプログラムでありたいと願います。



石川友和 (PhD) 助教  
Tomokazu Ishikawa

秋田県出身。慶應義塾大学法学部法律学科卒業。米国コロンビア大学で修士 (TESOL)、英国サウサンプトン大学でPhD (応用言語学) を取得。現在、サウサンプトン大学 Centre for Global Englishes 博士会員。共著教科書『Transcultural communication through Global Englishes』(Routledge, 2021年) など著書・論文多数。複数の世界的学術誌で編集委員・査読者を務めるなど国際的に研究に貢献している



# 現代社会の鍵となるジェンダー、移民、多様性の探究 フィールドワークを通して

## 声なき人々の姿を明らかにする

グローバル化した今日、移民の存在は、外国人労働者を受け入れている日本においても無視できません。フィリピン出身の岡田准教授は、ジェンダー（社会的・文化的に形成される性別）の研究から出発し、移民や多様性をめぐる研究に取り組んでいます。



特集

## ELFの 可能性

岡田トリシャ  
(PhD) 准教授  
Tricia Okada

フィリピン出身。国立フィリピン大学でスピーチコミュニケーションと演劇学を学ぶ。卒業後、文部科学省の奨学金を得て大阪大学大学院に留学。コミュニケーション社会学を専攻し、修士(人間科学)取得。2021年、早稲田大学大学院で国際関係学を修了。PhD(学術)取得。在日フィリピン人に関する研究論文を国際的に発信。多文化共生社会への理解促進に貢献している



大学院では宝塚の外国人ファンをテーマに、ジェンダーの観点で

社会的に研究していました。1980年代、フィリピン人のエンターテイナーが日本へ渡っていた事実を知ってたどり着いたのが、ジェンダーと移民という研究テーマ。博士論文のテーマは「日本におけるトランススピナイのエンターテイナー」でした。

現在は来日・定住したフィリピン人のLGBTQの人々と在日フィリピン人英語教師について研究しています。どちらの研究対象も性的に、人種的にマイノリティです。フィリピンから日本に移住した経緯、働く環境、定住後の暮らしなど、知られていないことは無数にあります。私が特に研究するトランススピナイのエンターテイナーを含め、在日外国人、そのジェンダーに関する問題は、日本社会で広く認識されているとは言えないのです。

ELFの授業で専門分野について詳しく説明することはまれですが、例えば、近年ベトナムをはじめとして東南アジア諸国から来日する人たちが増えている事実を伝えたりしています。こうした動きを授業で紹介し、グローバルな移民の問題を身近に捉え、多様性を知る機会をつくるようにしています。また、定住外国人が流暢な日本語で話すインタビュー映像を見せると、学生

### エンターテイナー

タレント活動などを行う外国人の入国を許可する「興行ビザ」で来日したフィリピン人女性の中には、バブなどで働き、その後、国際結婚で日本社会に溶け込んだ人や別の仕事に就いている人もいる

### トランスピナイ

フィリピン人女性で、男性に生まれた人を指す。出生時の性別と自認する性別(性自認)が異なる人を意味する「トランスセクシャル」と、タガログ語でフィリピン人女性を表す「ピナイ」を組み合わせた言葉



は彼らがバイリンガルあるいはマルチリンガルであることに驚き、刺激を受け、英語学修に対する意識を高める様子も見られます。

私が研究対象とする人たちは多くが孤立感を覚えています。そして自らの経験や考えを社会に発信する方法を持っていません。私は研究を通してこの声なき人たちの姿を明らかにし、世界の多様性について考えを深めていきたいと思っています。